

地方独立行政法人 長野県立病院機構 長野県立こころの医療センター駒ヶ根

診療情報の一元化と範囲の拡大、そして費用削減を実現
精神科病院特有の課題を解決



副院長 犬塚 伸 先生

導入経緯

電子カルテの更新を機に
あらゆる診療情報の統合化を希望

2011年12月に電子カルテを導入しましたが、部門システムの課題も多く、診療データの連携もスムーズにいかない状態が続いていました。このため、多職種のデータを参照するにも別々のシステムを起動しなければならず、連携を裏付ける診療プロセスの検証も困難な状態でした。

次期電子カルテの更新に向けてホスピタルショーの見学に出向き、最後に足を運んだのがアストロステージでした。1画面であらゆる診療情報を時系列に確認できるなど、画面を見ただけで当院が進めようとしている方向に合致すると直感しました。その後コンサルや幹部を交えた詳細な導入検討においてもこの直感を裏付けるシステムであることが明らかとなりました。

診療情報の一元化と大幅な費用削減が決め手に

アストロステージさんには、当院に何度も足を運んでいただき、関係者への説明とともに多くの職員を対象にデモを行っていただきました。この後に、当院がシステムを導入することに決定した主な理由は以下の2点です。

1. 診療情報の一元化と範囲の拡大

放射線画像管理、退院サマリ作成、診断書作成などを集約できること。また、生理検査画像管理、スキャン文書管理、iPadを用いた写真取り込み等、システム化の範囲を拡大できること。

2. 初期導入費用・運用保守費用の圧縮

1つのパッケージシステムに集約することで、ソフトウェア・ハードウェア費用、SE作業費用、システム導入後の保守費用が圧縮できること。

導入システム	
DICOM 画像管理システム	Nazca
診療情報統合システム	STELLAR
ドキュメント作成&管理システム	Sophia Report
ドキュメントスキャンシステム	Capella
地域連携システム (グループウェア)	STELLAR NET

導入効果

抱えていた課題が解決し、医療の質の向上、業務の効率化を実現

当院では、STELLARを始め、グループウェアなど多くのシステムを導入し、チーム医療の推進に大きく貢献しています。具体的な事例としては、以下の4点となります。

1. チーム医療の推進

栄養サポートチーム (NST)、認知症ラウンドチームで一括したシステム管理が可能となりました。また、放射線画像及び心電図検査結果等が全ての電子カルテ端末で閲覧可能になり、ラウンドの質が高まりました。

2. 情報共有の加速

グループウェアの導入により、お知らせ機能、メール機能、会議室・設備予約といった業務を電子化したことで、情報共有、業務の効率化が進みました。

3. 新規患者の紙サブカルテの廃止

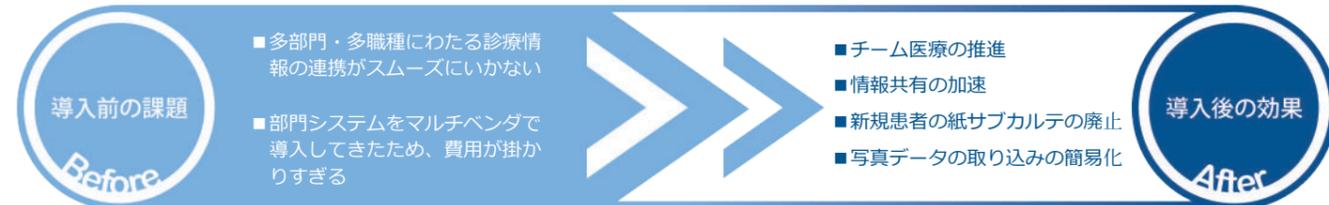
原則すべての紙情報をスキャンし保存することで、電子カルテ更新後の新規患者のサブカルテを廃止しました。

4. 写真データの取り込みの簡易化

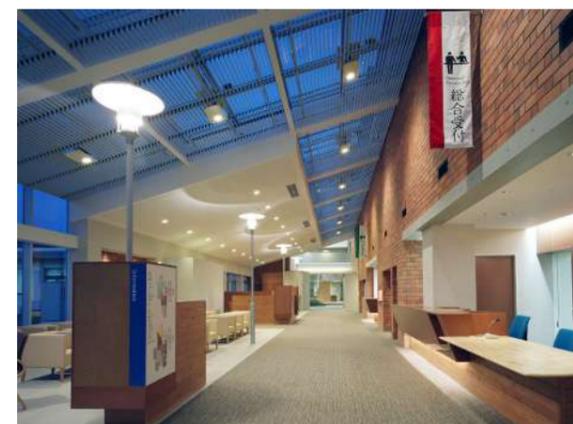
iPadを用い、新たに褥瘡や心理療法での箱庭療法の写真などをシステムに取り込み、時系列で比べることができるようになりました。



導入スタッフの皆さん



長野県立こころの医療センター駒ヶ根：システム導入時期 / Oct 2018



2018年公共建築賞優秀賞受賞の美しい建物

当院は、県立の精神科単科病院として、昭和31年の設立以来60年以上にわたる長野県の精神科医療の中核としての役割を果たして参りました。地方独立行政法人への移行新病院への改築を経て平成23年1月からは「こころの医療センター駒ヶ根」と名称も新たに「地域に開かれた病院」を目指し、質の高い精神科医療の提供に努めています。

129床とコンパクトな病床サイズですが、精神科救急病棟、アルコール依存症入院病棟、児童精神科病棟、医療観察法ユニットなど多様化する精神科医療のニーズに対応した治療環境を整備しています。外来では、もの忘れ外来や思春期外来といった専門外来のほか、精神科デイケア・作業療法などのリハビリテーション、訪問看護など地域生活支援にも力を入れており、多職種チームアプローチを基とした実践を行っています。

特に人材育成に関しては、平成29年から「精神科研修・研究センター」を設置し、質の高い精神科臨床と経験豊かな医師の指導により、県内の精神科医療に貢献できる精神科専門人材を当院から輩出していくことを目標としています。

所在地：長野県駒ヶ根市下平 2901

病床数：129床

診療科：精神科

今後の期待・要望

栄養サポートチーム (NST) や認知症ラウンドチームの新たな仕組みや様式などを検討する中で、アストロステージさんからは、多くの提案をいただき、様々な要望にも応えていただきました。今後とも全国のユーザーとともに、更なる精神科医療の質の向上に向けて、病院と一体となって取り組んでいただければ幸いです。

今後の方針

長い治療経過をたどる精神科医療において、電子カルテでの診療情報の蓄積は、病院にとっても患者さんにとっても必須となります。医療の進展とともに新たな治療によって患者さんが社会生活を維持できるよう日々診療の質向上と診療データ等を活用した治療方法の確立や研究を進めていきたいと考えています。

システム構成図

